

2019年	9月現在
会員数	340人
賛助会員数	12施設

ソーシャルワーカー 協会だより

第116号

■発行：新潟県医療ソーシャルワーカー協会 ■事務局：新潟大学医歯学総合病院 ■発行：令和元年9月

巻頭言

「ここにくれば ～何かをちょっと変えるために～」

医療法人社団敬成会 新潟市地域包括支援センターあじかた
管理者・主任介護支援専門員・社会福祉士 小山 弓子



昔々あるところに、高校の数学教師になりたい、バスケットボールと一世風靡セピアに愛を捧げる女子高生がいました。夢は叶わず、彼女は福祉系大学に進学し、バスケットとセピア愛は醒めぬまま4年間を過ごし…やっぱり彼女のいろいろな夢は叶わず、何となく選んだ一般企業に就職内定したはずが…縁あって白根緑ヶ丘病院の初代PSW、という道に進むこととなりました——。

…予想外の病院勤務、それもPSWという人生の選択肢には全くなかった仕事。本当に右も左も分からず、初日で辞めたくなるほどだった私の救世主となったのは、協会入会のお誘いTELをくださった南浜病院のO先輩。協会活動を通じて多くの仲間と出会い、そうしたひとたちが私を育ててくれました…といっても就職してから約15年間「ぼわ～ん」と「何とな～く」SWらしきことをしていただけ…。

地域包括支援センター配属となって「目指す姿」に出会い、「私はいままで何をしてきたのだろう、このままではいかん！！」と目が覚めたように学び始め…それから十数年。憧れの先輩たちにはちっとも近づけている気がしませんが、それでも少しは当時よりマシな仕事ができるようになってきたかなあ、というところです。

この間、私生活でも、大切な一人息子ちゃんにいろいろと悩みを与えてもらったり、5年前にはクライアントの立場となり自分の死について考えるところまで追い込まれたり、或いはクライアントの家族の立場を体験することになったり…。いろんな角度から「自己決定」とか「意思決定支援」、そして「対人援助って何だろう？」とか「ソーシャルワーカーって何するひと？」等々、考える機会をいただきました。その時々で、感じることは真逆だったりするので「人間って勝手な生き物だよなあ…」と改めて思いました。ひとの気持ちなんて、結局分からない。…でもわかりたい。自分と価値観の違いの意思を支えるって、思っている以上はかなり難しい。…でも支えたい。こんな私にも何かできるかな。私も誰か救えるなら。あなたがちょっと笑えるようなことができないかな…。

ところでこれを読んでくださっている皆さんは、何故いまの仕事についてのかな。何故、協会に入会したのかな。やりたいことがやりたいようにできているのかな。ここまでどんな風に過ごしてきたのかな。今、どんな想いで、何を大切にしているのかな。…そういったことを話し合えるひと、仲間たちがいるのかな。

たくさんの人生の交差点を渡ってきた私は最近、職業人生を終えるときの自分を意識し始め、そこに向かって具体的に何をしたいこうかと思案しながら過ごしています。一方で伸び伸びと好きなものに囲まれて…久々にのめりこむほど大好きなアーティストの曲をガンガン聴きながら愛車でドライブしたり、読書したり、友人と食事やお茶をしたり…自分自身の人生を豊かに楽しむことも意識しています。

そんななかで思いがけず、本当に思いがけず副会長に就任することとなりました（確か平成17年度に事務局長を終えて、協会の表舞台？から身を引いたつもりだったので）。私にとって大切な協会にヘルプを求められたら「今更？？私が？？」と思いつつも断るわけにはいかなかったですね。恩返しのつもりで、先輩からいただいていたものをどんな形になるか…つないでいきたいと思います。…ということで、改めてよろしくお願ひ申し上げます。

令和元年度 総会・春期研修会

令和元年6月1日 新潟医療人育成センター
岩室リハビリテーション病院 諏訪 雅

令和元年6月1日に春期研修会が行われました。永年会員表彰では、済生会新潟病院の北村純夫氏と新潟市地域包括支援センター岩室の池田敦志氏が表彰されました。研究・活動発表では5題の発表があり、介護保険法改正後の介護老人保健施設での活動や身寄りのない方への支援を含めたソーシャルワーク実践における自主勉強会の活動報告などが発表されました。私自身も活動報告のため登壇させていただきました。大勢の前で話しをするということは容易なことではありませんが、自分たちの行ってきた成果を言葉にすることで、“勉強してきた内容の整理ができること”、“自分のソーシャルワークへの自信”に繋がりました。

また、講義・基調講演では、新潟市民病院の押見将孝氏と大阪医療ソーシャルワーカー協会会長の藤田譲氏よりご講演いただきました。働き方改革が言われている現在に、家庭を持った一社会人である自分とソーシャルワーカーとしての自分の立ち位置や価値観を考えさせられました。日々変わりゆく時代の流れに、私たちも敏感にかつ柔軟に対応しなければならない職業です。私たちがソーシャルワーカーとして仕事ができるのも、永年会員で表彰されたお二人をはじめとする、多くの先輩方の努力が、今まで築きあげてくれたのだと感じました。日々の業務に疲れていたり、悩んでいる時こそ、このような機会を利用して心をリフレッシュしたり、ソーシャルワーカーとしてのモチベーションを整える機会になると嬉しいです。



支援相談員としてここにいる意味



介護老人保健施設 入舟
支援相談員 阿部 裕昭

「現状ではここでお受け入れができません」

介護老人保健施設（以下老健）の支援相談員にとって、このように言わなければいけない状況に必ず直面します。「断りません」などときれいごとを言うつもりはなく、断らなければいけないことはむしろ頻繁にあります。

老健は前回の改定で5つの類型ができ、どの類型かによって介護報酬が異なります。日々、類型を確定するための「在宅復帰・在宅療養等指標」が頭にちらつきながら、入所の可否、あるいは入所後も様々な機関・職種・関係者の「間にはさまって」、時には「これは支援相談員の仕事か・・・私は一体ここで何をやる人なのか」と悩んでいる支援相談員も多いのではないかと思います。

どの類型を施設が選択しているかによって、支援相談員の動きも異なっていると考えられますが、一方で、どの類型だろうが「利用者の思いをいかに引き出し自己決定を支えるか」等支援相談員として考えるべき共通していることもたくさんあります。つまり、類型は類型として存在しますが、「自分の施設の類型がこれだからこういう動きをする」という類型（施設方針）等だけをベースに動くのは「利用者向き合う」ことから離れる危険が伴うと感じています。類型とベッド調整だけに目を奪われそうになりますが、大事なことを見失わない様にしないといけないと考えています。

支援相談員は言うまでもなく専門職であり、利用者にとっても家族にとっても施設にとっても必要な職種であることは間違いありません。私は「間に挟まれる」というネガティブな印象ではなく、むしろ「間に入って調整する」と考えています。必要と判断すれば、積極的に「はさまりに」いきます。そしてそれができるのが、私たち支援相談員だと思います。冒頭のとおり「現状ではここでお受け入れができない」と伝えなければいけないことは避けて通れません。その「現状」をどうすれば変えることができるのか、今回は受け入れできなかったが「どうすれば利用していただくことができるのだろうか」と考え続けることにも「ここに支援相談員がいる意味」の一つがあると私は考えています。

そして、支援相談員について、周りから分かってもらえないと嘆くだけではなく、専門職として「ここにいる意味」を自らが自覚し、発信していくことも大事だと考えています。

最後に、専門職として学ぶ機会は欠かせません。一人で学び続けることには限界がありますが、仲間と一緒に学びつつ、今日もまた専門職として「ここ」でどう動くか考え、「現状」と向き合っていきます。

令和元年度 理事・運営委員役員名簿

役職・部会	理事名	所属	運営委員	所属
会 長	坂詰 明広	新潟白根総合病院		
副 会 長	新野 直紀 小山 弓子	クラレテクノ（株）ちゅーりっぷ苑 新潟市地域包括支援センターあじかた		
事 務 局	志田 香奈子	新潟大学医歯学総合病院	石原 慎一 堀 恵子 長谷川 恭子 鈴木 梨沙	新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院
財 政	五十嵐 大助 熊谷 麻美	北日本脳神経外科病院 信楽園病院	前田 美紗子 小林 孝明 片岡 美幸	岩室リハビリテーション病院 桑名病院 信楽園病院

役職・部会	理事名	所属	運営委員	所属
広報	今井 一徳 斉藤 健也	上越総合病院 特別養護老人ホーム しなの園	和田 健治 坂井 詩織 諏訪 雅 渡辺 攻	新潟市地域包括支援センター鳥屋野・上山 新潟市地域包括支援センターふなえ 岩室リハビリテーション病院 糸魚川総合病院
社会活動部	佐藤 祐美 加藤 卓真	脳神経センター阿賀野病院 西蒲中央病院	中山 健介 渋川 健史 山崎 輝美 長谷川 紗綾子 中野 博幸 山本 恵	医療法人愛広会 本部 済生会新潟病院 新潟脳外科病院 新潟市地域包括支援センター鳥屋野・上山 総合リハビリテーションセンター・みどり病院 介護老人保健施設 豊浦愛広苑
教育研修	川崎 智恵 亀山 真理 小嶋 千恵美	新潟臨港病院 介護老人保健施設 エバーグリーン 済生会新潟病院	阿部 裕昭 梅川 望 鈴木 真 池田 祐希 安田 伸悟 前田 美紗子 興梠 みゆき 青木 麻由 牧口 花菜 河野 聖夫(アドバイザー)	介護老人保健施設 入舟 西蒲中央病院 桑名病院 新潟白根総合病院 立川メディカルセンター立川総合病院 岩室リハビリテーション病院 済生会三条病院 南浜病院 柏崎市地域包括支援センター 新潟医療福祉大学
実績報告	岩淵 英理	豊栄病院	渡辺 浩行 木村 望 大泉 瑠理子 齋藤 直之	信楽園病院 新潟市民病院 新潟万代病院 新潟医療センター病院
監事	今井 麻衣子 小池 寿美	下越病院 介護老人保健施設 健進館		
実習指導 マニュアル 作成委員会	委員長 任田 康子 副委員長 鈴木 真	新潟脳外科病院 桑名病院	河野 聖夫(アドバイザー) 川崎 智恵 丸山 百合子 岩淵 恵理 新野 直紀 阿部 葉子 中野 博幸	新潟医療福祉大学 新潟臨港病院 信楽園病院 豊栄病院 クラレテクノ(株)ちゅーりっぷ苑 在宅ケアクリニック川岸町 総合リハビリテーションセンター・みどり病院
身寄りのない方への支援 マニュアル 作成委員会	委員長 鈴木 真理 副委員長 伊部 菜穂子 五十嵐 大助	下越病院 新潟市民病院 北日本脳神経外科病院	戸嶋 志津子 諏訪 雅 佐藤 祐美 松本 未南 鷺津 歩美 田坂 美佳 今井 麻衣子 滝澤 恵美	新潟県立津川病院 岩室リハビリテーション病院 脳神経センター阿賀野病院 あがの市民病院 南部郷総合病院 新潟白根総合病院 下越病院 済生会三条病院

～編集後記～

広報部理事も交代となり、記事作成に試行錯誤しておりますが、協会活動をタイムリーにお伝えできるよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

広報部理事 斉藤